

子どもの人権

問 教育委員会事務局人権・同和教育係 ☎ 0943-32-0093

誰もが人として尊重され、幸せに生きる権利「人権」をもっています。大人だけでなく、当然子どもも保障されています。

しかし子どもは、大人よりも人権が侵害されやすく、近年、家庭内における親から子どもへの虐待が大きな社会問題になっています。国際的にも貧困や飢え、戦争などで苦しむ子どもたちの姿が報道されています。

今回は、虐待や貧困による人権侵害の現状と、その対応についてご紹介します。

虐待

厚生労働省の報告書によると、全国の児童相談所における児童虐待相談件数は、平成30年度で15万9850件と過去最多。虐待は子どもの心身に大きな影響を与え、なかには死に至るような深刻なケースもあります。

「児童虐待の防止などに関する法律」(2000年施行)では、子どもの虐待を心理的虐待、身体的虐待、性的虐待、保護の怠慢(ネグレクト)の4つに分類しています。

これらの要因はさまざまですが、その多くは保護者の心が追い詰められた末の行動です。子どもを傷つけずにはいられないほどの心境になる前に、保護者自身の心が救われる必要があります。

子育てに悩んでいる人は、一人で抱え込まず、身近な人にご相談ください。家族や子どもが通っている園、学校など、誰かに話すことで悩みを解消できることがあります。

周囲に相談する人がいないときは、最寄りの児童相談所や、子育て支援係(☎0943・32・1113)へご相談ください。

虐待を防ぐには、「発生の予防」「早期発見・対応」が大切ですが、保護者自身が自分の行動の虐待化に気づけなかったり、相談すること躊躇している場合もあります。その場合は、児童相談所や児童福祉施設だけではなく、周りにいる人がそのリスクを察知し、見守る姿勢をとることも必要です。近所の人が追い詰められているように感じたら、しつこくならないよう配慮しながら、やさしく声をか

けてみましょう。

貧困

世界中で深刻化する子どもの貧困。2016年の国民基礎調査によると、日本では17歳以下の子どもの7人に1人が、貧困に苦しんでいると言われています。

本来子どもには、十分な栄養を取り、健康的に成長する権利や、教育を受ける権利があります。しかし、貧困の子どもたちは、経済的な理由から満足な食事が取れなかったり、進学を断念したりします。病気やケガをしても病院へ行くことができません。

この状況を解消するため、政府は2014年に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」を施行し、児童手当や入学金、放課後学習などの支援を行っています。NPO法人や自治体では、公民館や個人宅を開放し、無料または安価で食事を提供する「子ども食堂」や、無料の学習支援を行っている地域もあります。

国や自治体、NPO法人が

日々、支援にあたっています。私たちが一人ひとりにもできることがあります。

例えば、多くの人が目にしていない、コンビニのレジの横にある募金箱。集まった募金は主に、NPO団体の活動資金として活用されます。ペットボトルキャップをスーパーや学校、役場などに設置してある回収箱に入れるだけでも、支援ができます。ペットボトルキャップは、ワクチンとなり、貧しい子どもたちの健康を守ります。

一人ひとりの小さな寄付で助かる命と心があります。世界中で深刻化する子どもの貧困が少しでも減るよう、手を差し伸べていくことを考えてみてはいかがでしょうか。

子どもの人権を守るためには、制度だけでなく、私たちは一人ひとりが互いを思いやり、苦しんでいる子どもたちの言葉に耳を傾ける必要があります。子どもたちを取り巻きさまざまな問題に対し、見て見ぬふりをせず、社会全体で子どもたちを見守り育てていきましょう。

筑後が動いた天正12年(2)

～山下城への備えに、知徳城が構えられる～

黒木・河崎両氏の初狩りをめぐって渡瀬の戦いが

黒木・河崎両氏と星野氏を調一統ともいい、系譜の上では同族とされます。

黒木氏と河崎氏は毎年1月4日、調山(厳密には場所の特定ができない)一帯で恒例の初狩りを行っていました。ところが天正12年(1584年)だけは、ちよつと様相が異なります。本来なら黒木氏が先に勢子(狩りで鳥獣を駆り立て、逃げるのを防ぐ役割を担う人)を入れる習いになつているにもかかわらず、河崎氏が先に勢子を入れてしまったのです。

黒木氏は使者を立てて厳しく抗議しますが、河崎氏側は聞く耳をもちません。話はこじれ血脈の争いにまで発展し、ついには両家が互いに兵を挙げることとなります。

黒木氏は城主家永の舎弟益種を大将に、佐屋山(現八女市長野幸神社付近)に陣を取り、犬尾城主河崎重堯と矢部川を挟んで対峙します。

初めは黒木氏が優勢だったものの、河崎氏側に発心城(現久留米市草野にあった)主の草野鎮元(河崎氏の女婿)の

援軍が駆け付けたことで、一挙に形勢は逆転します。この動きに肥前龍造寺隆信が黒木氏へ加勢を申し入れ、黒木氏は子息四郎を人質として送つてこの申し出を受け入れます。これを機に、それまで黒木氏側に立っていた豊後大友氏の怒りを買ひ、いよいよ状況はこじれ、大友氏・龍造寺氏の代理戦の様相を呈します。

最終的に黒木氏が敗れたこの戦いは、両者の主戦場となつた渡瀬(現在も川崎小学校北付近に字名が残る)から、渡瀬の戦いと呼ばれます。

これに続き、さらに大事件が起こります。あれほど勇名をはせた龍造寺隆信が、鳴津・有馬連合軍によつて3月24日、島原(現島原市)の沖田畷で討たれたのです。

先月号で詳しく述べた黒木城攻略は、この事件が大きなきっかけとなつたことは間違いありません。

山下城の出城11か所の一つ、知徳城

大激戦の末に黒木城は落ち、それまで龍造寺氏と親しくしていた武将たちも、次々と大友氏の配下となります。山下

城(現八女市山下)主の蒲池鎮運もその一人で、すぐに城を開いて大友氏へ服従します。当然ながら龍造寺側からの反発が予想されたため、その対策として、周辺の山門郡・上妻郡・下妻郡などに、11か所の出城が構えられました。地図上の配置を見ると、肥前龍造寺氏への備えだつたことが一目瞭然です。

11か所の出城の一つとして、上妻郡内に構えられたのが知徳城だつたというわけです。

天正12年という年は、このように筑後地域が大きく動いた年でした。



知徳城跡(内村山)を望む(智徳区)

広川町古墳資料館だより

春は弘化谷古墳の石室内の環境が良くなり、壁画が見やすくなる時期。4月に一般公開を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、残念ながら中止となりました。当資料館自体も5月6日(予定)まで休館しています。

全国の多くの文化財展示施設では、屋内

展示解説の休止や、1か所に密集しないような対策がとられています。ビデオ視聴においても、間隔を1mあけて座る対策がとられています。

当資料館でも5月7日以降、同様の対策をとる予定です。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

